

逆境体験(ACE)と肯定体験(PCE)が青年期の適応に及ぼす影響

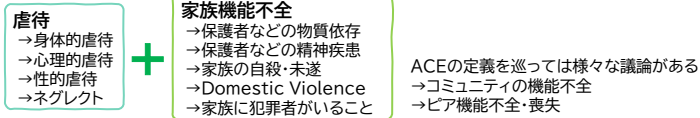
—通信制高等学校に通う生徒への調査を通して—

井出智博(北海道大学)・今西良輔(札幌大谷大学短期大学部)

I 問題と目的

1 児童期逆境体験(ACE)とその影響

児童期逆境体験: Adverse Childhood Experiences(ACEs)



ACEという概念の重要性は、通常ならば経験しないような子ども時代の逆境が**“重複して経験される”**という事実やそのことが子どものその後の暮らしや育ちに**長期にわたって与える影響の深刻さ**を理解する視点を与えるという点にある
→身体的外傷、メンタルヘルスの問題、妊娠・出産をめぐる問題、性感染症、生活習慣病、物質依存、社会的地位の低さ...

2 児童期肯定体験(PCE)という視点

児童期肯定体験: Positive Childhood Experiences(PCEs)
保護的、補償的体験(Protective and Compensatory Experiences: PACEs)

肯定的な経験と否定的な経験の両方が脳発達と健康を形成するにも関わらず、PCEsの調査は行われていない

PCEsを促進することはACEsが同時に存在していても、おとなになった時の精神的、対人的な問題を低減する可能性がある(Bethell et al., 2019)

→PCEはACEが発達や適応に与える否定的影響を緩衝する可能性がある

3 本研究の目的

- ・PCEにはACEによる否定的な影響を緩衝する効果があると考えられるが、日本ではPCEに焦点を当てた研究自体が希少である
- ACEの経験が多いと考えられる通信制高校生を対象にした調査を通してACEとPCEが青年期の適応に及ぼす影響を検討する

II 方法

本研究では公立通信制高校A高校の生徒指導に関わる学内委員会と協働する形で生徒の精神的健康や社会的な困難さを把握するための実態を把握する目的で行われた調査の一部のデータを用いた(N=190)。

【調査概要】

- ・webアンケートフォームを用いた調査
 - ・調査実施時期は2022年9~10月
 - ・本報告で分析の対象とした質問内容は以下の通り
 - ①自記式抑うつ評価尺度(岡田他, 2009)
 - ②Rosenberg自尊感情尺度(山本他, 1982)
 - ③高校生用将来展望尺度(三島, 2021)
 - ④松浦他(2007)を改訂したACEに関する質問
 - ⑤Bethell et al.(2019)を参照して作成したPCEに関する質問
- 一連の調査手続きについては発表者の所属機関における研究倫理審査を受審し、承認を受けた

項目	【うつ】F1抑うつ・悲哀感			【うつ】F2楽しみの減退			【自尊感情】			【将来】F1肯定積極将来			【将来】F2向社会		
	CL1	CL2	CL3	CL1	CL2	CL3	CL1	CL2	CL3	CL1	CL2	CL3	CL1	CL2	CL3
ACEsの個数	.311	-.074n.s.	.114n.s.	.250**	.128n.s.	.177n.s.	-.150 [†]	.020n.s.	-.258*	-.186*	.051n.s.	-.172n.s.	.079n.s.	-.217n.s.	-.057n.s.
PCEsの個数	-.341***	-.326n.s.	-.599***	-.495***	-.437*	-.486***	.455***	.174n.s.	.380**	.425***	.159n.s.	.400**	.473***	.460*	.587***
R ²	.266***	.097n.s.	.402***	.371***	.241 [†]	.306***	.264***	.029n.s.	.254***	.255***	.023n.s.	.220**	.211***	.319*	.363***
調整済みR ²	.252	.011	.379	.358	.169	.278	.249	-.064	.225	.240	-.070	.190	.196	.254	.338

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

IV 考察

従来、通信制高校の生徒は相談支援ニーズが高い(小川他, 2014)ことが指摘されてきたが、本研究でもほとんどの生徒が不登校経験を有していた他、児童虐待やいじめといった家庭内外でのACEを経験しており、そうした経験を複数有している生徒も少なくないことが示された。ACEの影響については、その内容だけではなく、ACEの個数、すなわち経験の重複がその人へのダメージを規定する(Donga他, 2004)という指摘があるが、この観点から見ると、通信制高校の生徒が経験している困難さやダメージは深刻なものであると推察される。

→実際に、本研究の結果からもACEを重複して経験している群ほど、適応状態がよくないことが示唆されているが、通信制高校に通う生徒の実態については十分に理解が進んでいない。また、そうした状況にあった生徒指導、教育相談体制の検討も不十分である。

III 結果

1 ACE(14項目)とPCE(8項目)の実態

項目	%(/190)	項目	%(/190)
不登校経験	85.8	親以外の信頼できるおとなの存在	74.2
高校の転校	52.6	親・保護者からの被保護感	73.7
心理的虐待の経験	42.1	見方になってくれる家族の存在	73.2
いじめか、または両方の親の不在	34.7	友人の支え	62.6
家族のメンタルヘルスの問題	27.4	居場所としての学校	50.5
いじめ被害の経験	22.1	家族への気持ちの開示	48.9
家庭内暴力(DV)の目撃	20.5	地域活動への参加	28.4
身体的虐待の経験	17.4	交際相手の支え	18.9
経済的困難	14.7		
家族のアルコール・薬物等の乱用(依存)	11.1		
性的暴力の経験	6.8		
ネグレクトの経験	6.8		
家族の逮捕拘禁	2.6		
災害による家の喪失	0.5		

▶平均該当数はACEで3.51(SD=2.49) PCEで4.39(SD=2.11)
→ACEもPCEも重複して経験されている

2 経験してきたACEによる分類(クラスター分析)

ACEは重複して経験されることが知られているため、ACEに関する質問をもとにクラスター分析(ward法)を行い、経験した困難による群分けを行ったところ、解釈可能な3つのクラスター(CL)が抽出された。

3つのCLについて、ACEとPCEの個数を一要因分散分析、及び多重比較(Bonferroni)により検討したところ、ACE:CL2 > CL3 > CL1(F=222.8, p<.001), PCE:CL2 < CL1, CL3(F=12.6, p<.001)という結果が得られた。

	CL1(103)		CL2(24)		CL3(55)		多重比較
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	
ACEの個数(全14個)	2.1	1.74	8.5	2.04	3.9	1.32	CL2 > CL3 > CL1
PCEの個数(前8個)	4.8	1.88	2.6	2.32	4.3	2.01	CL2 < CL1, CL3

- 〈CL1〉不登校経験の他はそれほど深刻なACEを経験していない群
- 〈CL2〉虐待や機能不全家族での生活、いじめなど広範にACEを経験している群
- 〈CL3〉心理的虐待やいじめの経験率が高い群

3 ACEとPCEが適応状態に与える影響

抑うつ、自尊感情、将来展望といった適応に関する指標を従属変数、ACEとPCEの個数を独立変数とした重回帰分析(強制投入法)を3群それぞれについて行い、ACEとPCEに関する経験の程度が適応状態に与える影響を検討した。

最も深刻な逆境を経験してきたCL2ではACE、PCEいずれも有効な予測変数とはなっていない一方で、CL1・CL3では全般的な傾向としてACEとPCEの個数が有効な予測変数となり、特にPCEの個数の方が不適応、適応いずれにおいてもより強い予測要因となることが示唆された。

しかし、彼らがどのくらい困難(ACE)や肯定的な体験(PCE)を経験してきたのかという点に注目してみると、一定程度の肯定的な経験(PCE)を持ちながら、不登校経験の他はそれほど深刻なACEを経験していない群(CL1)や心理的虐待やいじめの経験率が高い群(CL3)、虐待や機能不全家族での生活、いじめなど広範にACEを経験しており、PCEの経験が少ない群(CL2)といった特徴を持つ生徒群に分類されたように、通信制高校の生徒を一括りにして考えるのではなく、彼らのこれまでの経験を踏まえて支援について検討する必要がある。

従来のACEとPCEの関連を検討した研究では、経験してきたACEの深刻さを統制したうえでPCEの影響を検討されていなかったが、本研究ではACEの様相によって分類した群ごとに適応指標との関連を検討したところ、比較的軽篤ではない程度のACEを経験してきた群においてはPCEが抑うつのようなメンタルヘルス上の問題を抑制したり、自尊感情や肯定的な将来展望といった適応的な要素を促進したりする効果が期待されるのに対して、ACEを重複して経験してきたより深刻な群ではそうした効果が期待されにくいことが明らかになった。

特にACEの経験率が高い通信制高校に通う若者が肯定的な将来展望、向社会的な将来展望を描くためには、ACEが少ないことだけではなく、PCEを豊かに経験することが重要であることが示唆された。